



2024年9月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2024年2月5日

上場会社名 株式会社デコルテ・ホールディングス 上場取引所 東
コード番号 7372 URL <https://www.decolite.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 新井 賢二
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部ゼネラル・マネージャー (氏名) 新 敬史 TEL 078 (954) 5820
四半期報告書提出予定日 2024年2月5日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年9月期第1四半期の連結業績（2023年10月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第1四半期	1,806	△0.5	363	△32.6	334	△34.3	220	△35.5	220	△35.5	220	△35.5
2023年9月期第1四半期	1,815	16.8	539	13.6	509	13.7	341	13.3	341	13.3	341	13.3

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期第1四半期	43.22	—
2023年9月期第1四半期	66.97	—

(注) 希薄化後1株当たり四半期利益について、新株予約権の残高がありますが、希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため記載していません。

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2024年9月期第1四半期	13,980	4,986	4,986	35.7
2023年9月期	13,653	4,763	4,763	34.9

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年9月期	—	—	—	—	—
2024年9月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年9月期の連結業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,759	15.5	1,016	14.0	906	18.7	581	18.2	581	18.2	114.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年9月期1Q	5,670,000株	2023年9月期	5,670,000株
② 期末自己株式数	2024年9月期1Q	571,939株	2023年9月期	571,939株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年9月期1Q	5,098,061株	2023年9月期1Q	5,098,061株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その実現を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
2. 2024年2月5日に当社ウェブサイト (<https://ir.decollte.co.jp/>) に決算説明資料を掲載予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	5
(2) 要約四半期連結包括利益計算書	7
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	8
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(会計方針の変更)	10
(会計上の見積りの変更)	10
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、企業・個人ともに消費動向の改善や、インバウンド需要の回復が見られるものの、世界的な資源価格の高騰や円安による物価の上昇など、依然として不透明な状況が続いています。

ブライダル業界においては、コロナ禍において減少した婚姻組数の回復が見られない中、コロナ禍における「結婚式」に対する価値観の変化の加速とも相まって、本格的な回復には至っていない状況が続いています。

一方で、フォトウェディングは新たな結婚式のスタイルの一つとして注目を集め、特にコロナ禍以降、フォトウェディング市場には規模の大小を問わず新規参入を試みる事業者が増えています。

このような経営環境の下、主力業態であるフォトウェディングサービスにおいては、フォトウェディングのリーディングカンパニーとして、認知度向上や顧客のニーズと環境に合わせた施策を実行し、市場拡大に取り組んでまいりました。

また、アニバーサリーフォトサービスの「HAPISTA」においては、お宮参りや七五三等のイベントだけでなく、お子様を中心に家族でレポートしたくなるHAPPYな体験を得られるフォトサービスを提供してまいりました。現在全国で9店舗展開していますが、今後はブランド力を強化し、顧客層の厚い首都圏での店舗展開を進め、事業拡大を目指してまいります。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、フォトウェディングサービスにおいて婚姻組数の回復の遅れや、小規模事業者を含めた新規参入者の増加等の影響もあり、売上収益は前年同期を下回りました。費用面では、前連結会計累計期間に出店した7店舗の賃借料、人材の採用促進と給与制度改定(賃金引上げ)に伴う人件費の増加等、前年同期に比べ増加しました。これらの結果、売上収益は1,806百万円(前年同期比0.5%減)となり、前年同期に比べ8百万円減少しました。営業利益は363百万円(同32.6%減)となり、前年同期に比べ175百万円減少しました。また、親会社の所有者に帰属する四半期利益は220百万円(同35.5%減)となり、前年同期に比べ121百万円減少しました。

セグメントレベルの概況は以下のとおりです。

<スタジオ事業>

当第1四半期連結累計期間のセグメント業績は、売上収益1,791百万円(前年同期比0.1%減)、セグメント利益369百万円(同31.5%減)となりました。

・フォトウェディングサービス

撮影件数は前年同期に比べ2.3%減少、撮影単価は前年同期に比べ2.2%減少となりました。売上収益は前年同期に比べ7百万円減少し、1,707百万円(前年同期比0.5%減)となりました。

・アニバーサリーフォトサービス

前連結会計年度に開店した「HAPISTA なかもず店」「HAPISTA 尼崎店」「HAPISTA 今福鶴見店」が期初から収益貢献した結果、売上収益は6百万円増加し、84百万円(前年同期比8.1%増)となりました。

<その他>

フィットネスジムにおいては、2023年11月末で40minutes芦屋店を閉店したことを受け、売上収益は前年同期を下回り推移しました。

当第1四半期連結累計期間のセグメント業績は、売上収益14百万円(前年同期比33.7%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は1,424百万円となり、前連結会計年度末に比べ149百万円増加しました。これは主に現金及び現金同等物が268百万円増加した一方で、営業債権及びその他の債権が74百万円、棚卸資産が42百万円それぞれ減少したことによるものです。非流動資産は12,555百万円となり、前連結会計年度末に比べ177百万円増加しました。これは主に2023年12月に開店したスタジオAQUA千葉船橋店に係る賃貸借契約を締結したこと等により、使用権資産が106百万円増加したことによるものです。

この結果、資産合計は13,980百万円となり、前連結会計年度末に比べ326百万円増加しました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は2,199百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,918百万円減少しました。これは主に2020年12月に締結したシンジケートローンの借換を実行したことにより、借入金が1,974百万円減少したことによるものです。非流動負債は6,793百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,021百万円増加しました。これは主に2020年12月に締結したシンジケートローンの借換を実行したことにより借入金が1,910百万円増加したことによるものです。

この結果、負債合計は8,993百万円となり、前連結会計年度末に比べ103百万円増加しました。

(資本)

当第1四半期連結会計期間末における資本合計は4,986百万円となり、前連結会計年度末に比べ223百万円増加しました。これは主に利益剰余金が220百万円増加したことによるものです。

この結果、親会社所有者帰属持分比率は35.7%（前連結会計年度末は34.9%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は1,076百万円となり、前連結会計年度末と比べ268百万円の増加となりました。当第1四半期連結累計期間の各活動におけるキャッシュ・フローとそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは前年同期比20百万円減少し、558百万円の収入となりました。主な要因は、税引前四半期利益が334百万円となり、減価償却費及び償却費224百万円、営業債権及びその他の債権の増減額79百万円などのキャッシュの増加要因があった一方で、法人所得税の支払額140百万円などのキャッシュの減少要因がありました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは59百万円の支出（前年同期は168百万円の支出）となりました。主な要因は、有形固定資産及び無形資産の取得による支出49百万円などのキャッシュの減少要因がありました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは231百万円の支出（前年同期は188百万円の支出）となりました。主な要因は、シンジケートローンの借換に伴う長期借入金の借入による収入2,334百万円のキャッシュの増加要因があった一方で、シンジケートローンの借換などに伴う長期借入金の返済による支出2,403百万円、賃貸借物件の家賃支払い等によるリース負債の返済による支出162百万円のキャッシュの減少要因がありました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2023年11月6日に公表いたしました業績予想を変更していません。今後の業績動向を踏まえ、業績予想を修正する必要がある場合には、速やかに開示します。

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により、大きく異なる可能性があります。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	808,510	1,076,577
営業債権及びその他の債権	292,165	217,829
棚卸資産	93,426	51,202
その他の流動資産	81,870	79,362
流動資産合計	1,275,972	1,424,972
非流動資産		
有形固定資産	1,311,417	1,371,888
使用権資産	4,796,423	4,903,395
のれん	5,635,785	5,635,785
無形資産	16,528	16,300
その他の金融資産	541,809	543,958
繰延税金資産	70,991	79,123
その他の非流動資産	4,737	4,737
非流動資産合計	12,377,692	12,555,188
資産合計	13,653,664	13,980,161

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
借入金	2,448,021	473,096
営業債務及びその他の債務	248,660	314,749
リース負債	591,701	597,021
未払法人所得税	143,938	131,486
引当金	30,147	30,178
契約負債	393,614	320,243
その他の流動負債	261,770	332,991
流動負債合計	4,117,854	2,199,766
非流動負債		
借入金	472,397	2,383,326
リース負債	4,013,024	4,108,566
引当金	287,140	302,004
非流動負債合計	4,772,562	6,793,896
負債合計	8,890,416	8,993,662
資本		
資本金	155,384	155,384
資本剰余金	2,753,215	2,753,240
利益剰余金	2,411,957	2,632,318
その他の資本の構成要素	42,843	45,708
自己株式	△600,152	△600,152
親会社の所有者に帰属する持分合計	4,763,248	4,986,498
資本合計	4,763,248	4,986,498
負債及び資本合計	13,653,664	13,980,161

(2) 要約四半期連結包括利益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
売上収益	1,815,561	1,806,570
売上原価	916,151	1,029,664
売上総利益	899,409	776,906
販売費及び一般管理費	360,931	413,307
その他の収益	849	316
その他の費用	—	316
営業利益	539,327	363,598
金融収益	1,545	2,087
金融費用	31,302	30,898
税引前四半期利益	509,570	334,787
法人所得税費用	168,174	114,426
四半期利益	341,396	220,361
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	341,396	220,361
四半期利益	341,396	220,361
その他の包括利益	—	—
四半期包括利益	341,396	220,361
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	66.97	43.22

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

	親会社の所有者に帰属する持分					自己株式	合計	合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の資本の構成要素 新株予約権				
2022年10月1日残高	155,384	2,753,165	1,919,947	28,888	△600,152	4,257,232	4,257,232	
四半期利益	—	—	341,396	—	—	341,396	341,396	
その他の包括利益	—	—	—	—	—	—	—	
四半期包括利益合計	—	—	341,396	—	—	341,396	341,396	
新株予約権の失効	—	—	—	—	—	—	—	
株式報酬取引	—	—	—	3,949	—	3,949	3,949	
所有者との取引額等合計	—	—	—	3,949	—	3,949	3,949	
2022年12月31日残高	155,384	2,753,165	2,261,343	32,837	△600,152	4,602,578	4,602,578	

当第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)

(単位:千円)

	親会社の所有者に帰属する持分					自己株式	合計	合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の資本の構成要素 新株予約権				
2023年10月1日残高	155,384	2,753,215	2,411,957	42,843	△600,152	4,763,248	4,763,248	
四半期利益	—	—	220,361	—	—	220,361	220,361	
その他の包括利益	—	—	—	—	—	—	—	
四半期包括利益合計	—	—	220,361	—	—	220,361	220,361	
新株予約権の失効	—	25	—	△25	—	—	—	
株式報酬取引	—	—	—	2,889	—	2,889	2,889	
所有者との取引額等合計	—	25	—	2,864	—	2,889	2,889	
2023年12月31日残高	155,384	2,753,240	2,632,318	45,708	△600,152	4,986,498	4,986,498	

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	509,570	334,787
減価償却費及び償却費	188,361	224,313
金融収益	△1,545	△2,087
金融費用	31,302	30,898
有形固定資産除却損	—	316
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△16,392	79,315
棚卸資産の増減額 (△は増加)	34,012	42,223
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	17,964	14,556
契約負債の増減額 (△は減少)	△6,394	△73,371
その他の負債の増減額 (△は減少)	40,879	71,887
その他—純額	5,417	2,718
小計	803,175	725,558
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△21,305	△26,000
法人所得税の支払額	△202,420	△140,816
営業活動によるキャッシュ・フロー	579,450	558,741
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産及び無形資産の取得による支出	△88,724	△49,492
投資の取得による支出	△79,522	△9,970
投資活動によるキャッシュ・フロー	△168,247	△59,462
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の借入による収入	—	2,334,000
長期借入金の返済による支出	△62,544	△2,403,061
リース負債の返済による支出	△123,241	△162,150
その他—純額	△3,000	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△188,785	△231,211
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	222,417	268,067
現金及び現金同等物の期首残高	1,350,976	808,510
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,573,393	1,076,577

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項ありません。

(会計方針の変更)

該当事項ありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項ありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は、製品・サービス別の事業部を置き、各事業部は、取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

当社は、事業部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「スタジオ事業」を報告セグメントとしています。

「スタジオ事業」は、フォトウェディングサービスの提供・アニバーサリーフォトの撮影及び写真加工、アルバム等の製作を行っています。

(2) 報告セグメントに関する情報

前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間におけるセグメント情報は、次のとおりです。

前第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計	要約四半期連結 財務諸表計上額
	スタジオ 事業	計			
売上収益					
外部収益	1,793,499	1,793,499	22,061	1,815,561	1,815,561
セグメント間収益	—	—	—	—	—
合計	1,793,499	1,793,499	22,061	1,815,561	1,815,561
セグメント利益	538,687	538,687	639	539,327	539,327
金融収益	—	—	—	—	1,545
金融費用	—	—	—	—	31,302
税引前四半期利益	—	—	—	—	509,570

(注) 「その他」は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「フィットネス」が含まれています。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計	要約四半期連結 財務諸表計上額
	スタジオ 事業	計			
売上収益					
外部収益	1,791,947	1,791,947	14,622	1,806,570	1,806,570
セグメント間収益	—	—	—	—	—
合計	1,791,947	1,791,947	14,622	1,806,570	1,806,570
セグメント利益又は損失 (△)	369,118	369,118	△5,520	363,598	363,598
金融収益	—	—	—	—	2,087
金融費用	—	—	—	—	30,898
税引前四半期利益	—	—	—	—	334,787

(注) 「その他」は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「フィットネス」が含まれています。